

# 森里川海の恵みの保全と利活用による地域づくり

「OKAYAMA サステイナブルSATOYAMA-SATOUMI  
UNIVERSITY プロジェクト」 OSSU !

岡山県広域 里山・里海学習体験型コミュニティプロジェクト



一般社団法人 北房観光協会

# これまでのエリアごとの点での活動



行政や専門機関との  
連携を強化して効果的な  
保全と活性化を進めたい

真庭市  
ホタルの保護 川ゴミ削減

岡山県



気候変動による  
海水温の上昇などから  
アマモや魚を守りたい

笠岡市  
海洋牧場 アマモ再生

備前市  
令和の里海づくり  
アマモ再生



→海だけ・山だけの活動では保全の効果に限界。栄養塩や資源の循環の観点も必要。2

# 3 エリアごとの点での活動から 水域という線で結び 里山里海の広域エリアを面で捉えた活動への転換

健康な森づくりで  
豊富な栄養塩を送る



森林、耕作放棄を解決して  
海に豊かな栄養塩を届けたい！



牡蠣殻肥料で  
里海米づくり



栄養塩

栄養塩

栄養塩

栄養塩

里海づくりモデル事業  
全国ブランドになっている牡蠣の殻を  
海底に散布して海底環境を改善  
里山の田んぼに撒いて里海米を作る取組



瀬戸内  
かきがら  
アグリ

牡蠣加工場に隣接している  
粉碎した貝殻を集積する場所



# ホテルを守れば海も守れる



里海から里山を訪ねて合同で川ゴミひろい

里山里海交流学习体験

里山から里海を訪ねて合同で海ゴミひろい

# 環境省 令和7年度良好な環境を活用した観光モデル事業

## 実施主体、事業名などの概要

- ・事業名：岡山県広域 里山・里海学習体験型コミュニティプロジェクト  
「OKAYAMA SATOYAMA-SATOUMI UNIVERSITY プロジェクト」
- ・実施主体：一般社団法人 北房観光協会 ・対象地域：岡山県真庭市・備前市・笠岡市
- ・対象とする良好な環境：「令和の里海づくり」モデル事業、残したい“日本の音百景百選”

## 地域の現状・課題

水で繋がる真庭市北房、備前市日生、笠岡諸島はいずれも過疎化が進み入込数が少ない地域。良好な水環境の保全のため、瀬戸内海の水質の維持・栄養塩の管理・アマモ場の再生、健全な里山作りが必要であるが、事業費や人材の確保が困難な状況であるため、3エリアの効果的な連携による、保全活動の体験プログラム化とその発信、人材育成が必要。

## 目指すべき姿（中長期ビジョン）

3エリア広域連携によるコミュニティ運営団体が設立され、国内外の自然関心層や教育団体・企業が訪問し学習体験ができる環境を整備し、3エリア間連携による新たな保全プロジェクトやツアー、体験学習による活発な活動が持続的に実施されている状態を目指す。

## 実施項目（事業内での取組）

- 広域3エリアの横断組織の設立準備
- 営業戦略の策定及び検証  
一般販売・受入モニター実施  
キックオフイベント開催
- 受入人材の育成・拡充
- 保全との連携体制（運用）の構築

R9：横断組織設立 サイト運営ツアー・コンテンツ販売開始  
（事業期間終了後）

R8：3エリア横断組織 設立準備ツアー・コンテンツ販売準備

R7：体制構築 体験プログラム造成 初期PR

## 実施項目（事業内での取組）

- 広域3エリア連携による体制構築
- 広域コミュニティのストーリー及びコンセプトの形成
- 体験プログラム造成検証（国内外有識者モニター実証）
- 初期PR体制構築（WEBサイト立上げ・関連サイトでの発信）

## 実施項目（自走化）

- 広域3エリアの横断組織設立・サイト運営
- 継続したコミュニティフォロワーの獲得活動
- 国内外の教育団体・企業の受け入れ実施
- 体験ツアー・コンテンツ販売

# 森林放棄地の間伐作業で明るい森を再生して 海への栄養塩を増やす活動（経営）

## 間伐した松の皮をむいて瀬戸内海の牡蠣イカダに活用する体験



- R7新規造成コンテンツ：9件
- モニターツアー参加者
  - 北房～日生ルート（日本人向け）：4名
  - 北房～笠岡ルート（外国人向け）：4名

森から納品された松が並ぶ  
日生の牡蠣イカダ組み立て場



# 【北房】

窓口担当：コバウツズ 小林  
小さく持続可能な森林経営を通して、  
里山保全・再生に取り組む林業家

窓口担当：みずべ 松田  
海洋実験・調査を通じて、  
持続可能な里海を守るダイバー

窓口担当：  
里海づくり研究会議 広瀬  
海洋調査研究と海の現場を結ぶことで、  
生き物がハッピーな里海を守る研究員

# 【笠岡】



# 【日生】



里海米を作る  
農家



地域の仕事と繋がる  
滞在拠点オーナー



海の学術研究所  
運営者

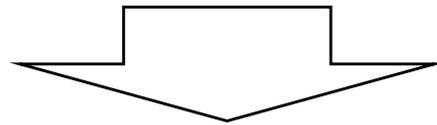


海を守る  
漁師

R7OSSU参加企業・団体数：10団体（地元企業・銀行・新聞社、国内大手製造業等）  
地域交流会参加者：46名（OSSU関係者、大学教授、行政関係者、一般住民等）

## 課題

- 1、森林放棄、耕作放棄による海への栄養の流入の減少
- 2、気候変動による海水温の上昇などによる環境への影響  
(民間のみでの対応は限界あり)
- 3、取組の継続・定着に必要な関係者の連携促進の困難さ



民間の私たちから、地元行政や専門機関、企業などへ  
取組の意義・計画の説明、協力を要請・理解を得る難しさ

→環境省による水環境保全方針の明示・制度的裏付けが重要

(例)

- ・面を取り組むことの重要性
- ・行政界をまたぐ連携の意義・価値
- ・コーディネーターなど地域内外を繋ぐ人材確保



OSSU

未来につなぐ里山里海広域連携による環境保全体制作り

<https://www.ossu-pj.com/>

